



EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2018年度 シラバス
- 学部生対象(入門科目) -

最終更新日: 2018 年 5 月 11 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照



講義科目名	EU論基礎—制度と経済—
科目ナンバリングコード	KED-ASC2231J
講義題目	
授業科目区分	高年次基幹教育科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	岩田 健治 フェニック M. D.
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	2
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	岩田が担当する講義は日本語で、Fenwick(フェニック)が担当する講義は英語で、それぞれ行います。
教室	大講義室
その他 (自由記述欄)	本講義は、経済学部の岩田健治と法学部のMark Fenwick(マーク・フェニック)の2名が担当する学際的講義ですが、上記2学部以外の全ての学部生を受講を歓迎します。

授業概要	<p>EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっています。この講義では、EUの基本的なことがらについて、経済学・法学の視点から総合的に学びます。経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、また、法制度編では、EU進展の歴史、EUの組織と制度の概要、EU立法手続き、EU法の諸原則、欧州裁判所の役割と代表的な判例などを、それぞれ学びます。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得することができるでしょう。</p> <p>Since the establishment of the ECSC in 1951, the European Union (EU) has performed both a “deepening” by establishing the Internal Market and the Single Currency and a “widening” by increasing Member States from the original 6 to 28. In doing so, it has been able to establish its influence in the world. This course covers basic topics of the EU from the viewpoint of economics, as well as law. The economic part of the course deals with theories and the history of the EU economic integration and the current situations of the EU economy etc. The legal part deals with the background and development of the EU, an outline of EU institutions, the EU’s legislative procedures, general principles of EU law, the role of the Court of Justice, including a look at selected cases etc. Students are expected to receive a thorough exposure to a wide range of current EU-related topics at an introductory level.</p>
キーワード	EU(欧州連合)、ヨーロッパ、経済統合、単一市場法
履修条件等	特にありません。

履修に必要な知識・能力	<p>経済学・法律学の基礎知識があると理解が容易となりますが、なくてもヨーロッパや地域的統合に何らかの関心があれば履修可能です。フェニックが担当するEU法に係る授業と成績評価(レポート)は英語で行われるため、英語で授業を正確に理解し、それに基づいて英語でレポートを作成する能力が求められます。</p>																																																																																								
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 219 300 271">No</th> <th data-bbox="300 219 512 271">観点</th> <th data-bbox="512 219 1256 271">詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 271 300 353">1.</td> <td data-bbox="300 271 512 353">EUに関する経済学的知識</td> <td data-bbox="512 271 1256 353">ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 353 300 436">2.</td> <td data-bbox="300 353 512 436">EUに関する法律学的知識</td> <td data-bbox="512 353 1256 436">EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 436 300 488">3.</td> <td data-bbox="300 436 512 488">C:汎用的技能</td> <td data-bbox="512 436 1256 488"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 488 300 539">4.</td> <td data-bbox="300 488 512 539">D:態度・志向性</td> <td data-bbox="512 488 1256 539"></td> </tr> </tbody> </table>									No	観点	詳細	1.	EUに関する経済学的知識	ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。	2.	EUに関する法律学的知識	EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。	3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																																																																		
No	観点	詳細																																																																																							
1.	EUに関する経済学的知識	ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。																																																																																							
2.	EUに関する法律学的知識	EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。																																																																																							
3.	C:汎用的技能																																																																																								
4.	D:態度・志向性																																																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 562 300 645">No</th> <th data-bbox="300 562 927 645">進度・内容・行動目標</th> <th data-bbox="927 562 986 645">講義</th> <th data-bbox="986 562 1102 645">演習・その他</th> <th data-bbox="1102 562 1256 645">授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1.</td><td>第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2.</td><td>第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3.</td><td>第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4.</td><td>第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5.</td><td>第5講 通貨協力と単一通貨(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6.</td><td>第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7.</td><td>第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(3)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8.</td><td>第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9.</td><td>第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10.</td><td>第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11.</td><td>第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12.</td><td>第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13.</td><td>第13講(Fenwick) The EU General Data Protection Regulation</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14.</td><td>第14講(Fenwick) Brexit</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15.</td><td>第15講(Fenwick・岩田) Class Review & Exam Preparation</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>									No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について	○			2.	第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構	○			3.	第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)	○			4.	第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)	○			5.	第5講 通貨協力と単一通貨(1)	○			6.	第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)	○			7.	第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(3)	○			8.	第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える	○			9.	第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case	○			10.	第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case	○			11.	第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case	○			12.	第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases	○			13.	第13講(Fenwick) The EU General Data Protection Regulation	○			14.	第14講(Fenwick) Brexit	○			15.	第15講(Fenwick・岩田) Class Review & Exam Preparation	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																																																					
1.	第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について	○																																																																																							
2.	第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構	○																																																																																							
3.	第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)	○																																																																																							
4.	第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)	○																																																																																							
5.	第5講 通貨協力と単一通貨(1)	○																																																																																							
6.	第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)	○																																																																																							
7.	第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(3)	○																																																																																							
8.	第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える	○																																																																																							
9.	第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case	○																																																																																							
10.	第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case	○																																																																																							
11.	第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case	○																																																																																							
12.	第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases	○																																																																																							
13.	第13講(Fenwick) The EU General Data Protection Regulation	○																																																																																							
14.	第14講(Fenwick) Brexit	○																																																																																							
15.	第15講(Fenwick・岩田) Class Review & Exam Preparation	○																																																																																							
授業以外での学習にあたって	EUやヨーロッパに関するニュースや新聞記事を積極的に活用して下さい。																																																																																								
テキスト	特定のテキストは利用しません。																																																																																								
参考書	<p>全体を通した参考図書： 森井裕一編著『ヨーロッパの政治経済・入門』有斐閣、2012年。 田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治編著『現代ヨーロッパ経済 第5版』有斐閣アルマ、2018年。 庄司克宏『はじめてのEU法』有斐閣、2015年。 Herman Lelieveldt, Sebastiaan Princen, The Politics of The European Union, Cambridge University Press, 2011。 この他の参考図書については、講義の進行に沿って提示します。</p>																																																																																								
授業資料																																																																																									
	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)																																																																															

成績評価		◎							
			◎						
	その他 (自由記述 1)								
	その他 (自由記述 2)								
その他 (自由記述 3)									
成績評価基準 に関わる補足 事項									
ルーブリック	☆EU論基礎2017.pdf								
学習相談	<p>授業内容その他に関してわからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員にコンタクトをとって質問して下さい。</p> <p>経済分野: 岩田 健治 iwata@econ.kyushu-u.ac.jp</p> <p>政治分野: Mark Fenwick mark@law.kyushu-u.ac.jp</p>								
添付ファイル									
その他	<p>この科目はEU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) 開講科目です。</p> <p>http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</p> <p>EU-DPs科目の中でもEUそのものを扱う「入門科目」ですので、同プログラム登録者は是非受講して下さい。</p>								
更新日付	2018-04-04 23:24:12.637								



シラバス参照



講義科目名	文学・言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	スタンダール『赤と黒』を読む
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	高木 信宏
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>本講義で取り上げるのは、19世紀フランスの作家スタンダールが書いた長編小説『赤と黒』です。フランス本国のみならず世界的にも近代リアリズムの古典として位置づけられている重要な作品であり、各国語に翻訳され、読み継がれています。日本でも岩波文庫、新潮文庫、光文社古典新訳文庫から邦訳が刊行されており、すでに数多くの読者がいます。</p> <p>授業では、歴史と近代小説との関係、作者のパーソナリティと創作行為との関係、本作品に特有の執筆方法、さらにはテキストの諸テーマがもつ意味や構成上の役割について考察していきながら、『赤と黒』を味読したいと考えています。</p> <p>人間は洋の東西を問わず、古代より物語をそれぞれの言語で紡いで来ました。ノーベル文学賞が設けられているように、映画という表象芸術の登場以降もなお、文学、なかでも小説は私たちの思考や感情を表現できる最も優れた芸術でありつづけています。そのような小説という言葉による芸術の有り様を具体的に知ることもまた本講義の目的にほかなりません。</p> <p>This course provides a foundation for the close reading of french modern novel by focusing on Stendhal's "The Red and the Black". This includes analysis of basic diction, style and fiction device.</p>
キーワード	フランス文学 近代小説 スタンダール
履修条件等	テキストにはフランス語原典ではなく邦訳を使用します。
履修に必要な知識・能力	異文化に対する知的的好奇心。他の国の歴史・社会・文化に対する理解力。文学作品に対する関心。

到達目標	No 観点		詳細							
	1.	A:知識・理解	作品のもつ文学史的な意義や独創性を文学史的に位置づけられること。							
	2.	B:専門的技術	作品中の挿話や登場人物の心理・行動がもつ意味を、フランスの歴史・社会状況に照らして解釈できること。テーマや構成、技法について掘り下げて考察できること。							
	3.	C:汎用的技術	他の文学作品へと関心をひろげるとともに、現代社会に対する批評的な視点をもつこと。							
	4.	D:態度・志向性	協調性を重んじ、他の人の意見を尊重しつつ、持論を展開できること。							
授業計画	No 進捗・内容・行動目標			講義	演習・その他	授業時間外学習				
	1.	初回オリエンテーション(授業内容の説明と作家の紹介)			○					
授業以外での学習にあたって	授業中に言及する他の作家の作品についても積極的に翻訳を読み、仏文学に関する知見を深めてください。									
テキスト	テキストには『赤と黒』の邦訳を使用します。九大生協の書籍部等で文庫版の『赤と黒』(上下2巻)を入手しておいてください。									
参考書	参考文献については授業中に指示します。									
授業資料	適宜プリントを配布します。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	○						
		○	○	○						
		○	○	○						
成績評価基準に関わる補足事項	毎回出席調査をおこないます。									
ループバック										
学習相談	授業後に対応します。									
添付ファイル										
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。									

	http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html
更新日付	2018-04-06 14:18:34.6



シラバス参照



講義科目名	文学・言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	西洋文学入門 ―九州大学所蔵トーマス・マン書簡をめぐって―
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	小黒 康正
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	2404
その他 (自由記述欄)	本講義はトーマス・マンを考察の中心に据えた西洋文学入門です。文学作品に興味のある方のみならず、あまり本を読んだことがないという方も大歓迎です。文学研究の醍醐味を分かりやすくお伝えします。また、授業では、レポートや論文を書くためのコツを伝授しますので、専門にかかわらず、皆さんにとって役に立つ授業になるはずです。

授業概要	<p>トーマス・マン(1875-1955)は、『トニオ・クレイガー』『ヴェニス死す』『魔の山』『ヨゼフとその兄弟たち』『ファウストゥス博士』などの文学作品で著名なドイツ文学を代表する作家です。26歳の時に公にした長編小説『ブッデンブローク家の人びと』(1901)で、1929年にノーベル文学賞を受賞しただけに、20世紀の世界文学を代表する作家と云っても過言ではありません。</p> <p>マン文学は、膨大で、多岐に渡ります。例えて言いますと、すそ野が広く、実に険しい峻嶺です。事実、マンは、ショーペンハウアー、ニーチェ、ヴァーグナー、ゲーテ、さらにはトルストイ、ドストエフスキー、シラー、フロイトなどから影響を受けました。マン文学は過去の文学や思想が多層的に交錯する磁場です。それだけに、深山幽谷にアプローチする入り口は少なくありません。</p> <p>皆さん、ご存知でしょうか。実は「登山口」の一つが、九州大学にあります。マンの書簡が、直筆の手紙を含め5通も九州大学附属図書館に貴重図書として所蔵されているのです。2017年6月、マンの書簡と高橋義孝元教授の研究ノートからなる寄贈が同教授のご遺族から本学にあり、寄贈の経緯が2018年3月2日と11日にNHKで報道され、多くの方々の耳目を集めました。</p> <p>本講義では、マンの重要な著作を解説しながら、九州大学所蔵書簡の文学的かつ思想的背景を明らかにします。マンの著作は、文学作品のみならず、エッセイであれ、手紙であれ、日記であれ、膨大であり、難解です。とは言え、そこに踏み込んだ者を取りこにする「魔の山」でもあります。本講義は、私たちの身近な研究資料を用いた「登山ガイド」になるはずです。</p> <p>This lecture course focuses on selected works and letters by Thomas Mann in order to provide an overview of the basic perspectives and concepts of modern German literature and thoughts.</p>
------	--

キーワード	トーマス・マン、ドイツ文学、西洋文学、九州大学附属図書館、高橋義孝									
履修条件等										
履修に必要な知識・能力										
到達目標	No	観点	詳細							
	1.	A: 知識・理解	西洋文学に対する理解を深める。							
	2.	B: 専門的スキル	文学研究の基礎を学ぶ。							
	3.	C: 汎用的スキル	自らの思索を自らの言葉で論述するスキルを学ぶ。							
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	導入、高橋義孝「地球の良心トーマス・マン」(1955)	○							
	2.	『道化者』(1897)	○							
	3.	『墓地への道』(1900)	○							
	4.	『神の剣』(1901)	○							
	5.	『トニオ・クレーガー』(1903)	○							
	6.	『預言者の家にて』(1904)	○							
	7.	『ヴェニスに死す』(1912) 1	○							
	8.	『ヴェニスに死す』(1912) 2	○							
	9.	『非政治的人間の考察』(1918) 1	○							
	10.	『非政治的人間の考察』(1918) 2	○							
	11.	エルンスト・ベルトラム宛て書簡(1920)	○							
	12.	『ドイツ共和国について』(1922)	○							
	13.	平田次三郎宛てマン書簡(1949)	○							
	14.	高橋義孝宛て書簡(1949、1951、1954)	○							
	15.	予備日	○							
授業以外での学習にあたって	講義では、マンの様々な著作を扱います。但し、いずれも比較的短いものなので、心配無用です。以下で示した2冊のテキストを購入の上、該当箇所を予め読んで授業にのぞんでいただくと、講義内容がよく理解できます。									
テキスト	1 『トーマス・マン短篇集』(実吉捷郎訳、岩波文庫) 2 トーマス・マン『トニオ・クレーゲル ヴェニスに死す』(高橋義孝訳、新潮文庫)									
参考書	1 トーマス・マン『講演集 ドイツとドイツ人 他五篇』(青木順三訳、岩波文庫) 2 小黒康正『黙示録を夢見たとき トーマス・マンとアレゴリー』(鳥影社、2001年) 3 岡光一浩『トーマス・マンの青春 全初期短編小説を読む』(鳥影社、2009年)									
授業資料	適宜プリントを配布します。									
	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)

成績評価										
		○	○	◎						
	レスポンスペーパー	◎	○							
成績評価基準に関する補足事項	平常点50%とレポート50%で成績を評価します。レポートは問題点に朱を入れて返却する予定です。さらにコメントも付してレポートや論文を書くためのコツを伝授しますので、皆さんの書く技術が飛躍的に向上するはずです。本講義を通じて、大学であれ、社会であれ、非常に役に立つ基本的なスキルを身につけてください。									
ルーブリック										
学習相談	本授業の終了後、ならびにオフィスアワー(火曜3限、箱崎キャンパス、小黑研究室)にて相談に応じる。									
添付ファイル										
その他	基本的に講義形式の授業です。但し、授業中に何度か書いてもらうレスポンスペーパーを通じて、授業が一方通行にならないように努めます。なお、本講義は、九州大学EU研究ディプロマプログラムの指定科目です。									
更新日付	2018-04-12 20:53:11.062									



シラバス参照



講義科目名	文学・言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	比較文学
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	西野 常夫
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>明治以降の日本近代詩の成立と展開には、西洋文学が大きな影響を及ぼした。授業では、両者のそうした関係の典型例として、中原中也とフランス象徴派の詩を取り上げて考察したい。後者の代表的詩人は、ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボーなどである。</p> <p>Western literature had a lot of influences on formation and development of Japanese modern poetry. In this lecture we will examine the relation between Chuya Nakahara's poetry and the French Symbolists' as a typical example of such influences. Among the representative poets of the latter are Baudelaire, Verlaine and Rimbaud.</p>						
キーワード	日本近代詩、フランス象徴派、中原中也						
履修条件等							
履修に必要な知識・能力							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td>日本近代文学の展開に外国文学・翻訳文学が大きく関与していることを詩の領域において確認する。日本の詩人が外国の詩を原文や翻訳で読み、自分の創作に生かしていった過程を具体的に検討し、影響関係を理解することを目標とする。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.		日本近代文学の展開に外国文学・翻訳文学が大きく関与していることを詩の領域において確認する。日本の詩人が外国の詩を原文や翻訳で読み、自分の創作に生かしていった過程を具体的に検討し、影響関係を理解することを目標とする。
No	観点	詳細					
1.		日本近代文学の展開に外国文学・翻訳文学が大きく関与していることを詩の領域において確認する。日本の詩人が外国の詩を原文や翻訳で読み、自分の創作に生かしていった過程を具体的に検討し、影響関係を理解することを目標とする。					

到達目標	2.	B:専門的 技能								
	3.	C:汎用的 技能								
	4.	D:態度・ 志向性								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	日本近代詩の黎明を告げる「新体詩抄」(明治15年)について。	○							
	2.	明治・大正期の代表的翻訳詩集「於面影」(森鷗外など)、 「海潮音」(上田敏)、「珊瑚集」(永井荷風)について。	○							
	3.	英語の詩、フランス語の詩の形式上の主な規則について。	○							
	4.	中原中也の少年期の短歌と石川啄木の短歌の比較研究。	○							
	5.	中原中也の詩論について。	○							
	6.	中原中也とフランス象徴派の出会い。	○							
	7.	ボードレール「悪の華」について。	○							
	8.	中原中也における主要モチーフと「悪の華」との関係。	○							
	9.	ランボーについて。	○							
	10.	中原中也における主要モチーフとランボーとの関係について。	○							
11.	その他の象徴主義的詩人について(ヴェルレーヌ、エドガー・ アラン・ポー、萩原朔太郎など)。	○								
授業以外での 学習にあたって										
テキスト	教科書は使わない。配布プリントをもとに、講義を行ない、資料(詩のテキスト)の検討・読解を行なう。 毎回、詩のテキスト等のコピーを配布する。									
参考書	参考書 『中原中也全集』(角川書店)、『中原中也詩集』(岩波文庫、その他)など。その他の参考文献は授業時に紹介する。									
授業資料										
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		◎								

	○									
	○									
成績評価基準 に関わる補足 事項										
ループリック	成績評価について.pdf									
学習相談	水曜日昼休み時間、金曜日昼休み時間、3限など									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2018-03-17 12:47:26.405									



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	聖書と神話の図像学～イタリア・ルネサンス絵画を中心に
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	京谷 啓徳
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。</p> <p>*****</p> <p>キリスト教主題とギリシア・ローマ神話主題の絵画は、近代以前に描かれた西洋絵画の大半を占めるとしても過言でない。この講義では、おもにイタリアのルネサンス期の作例を取り上げつつ、図像学的観点から、これらキリスト教主題およびギリシア・ローマ神話主題の絵画について考察する。</p> <p>In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.</p>
キーワード	西洋美術史、イタリア・ルネサンス美術、図像学、聖書、ギリシア・ローマ神話

履修条件等	特になし。									
履修に必要な知識・能力	特になし。									
到達目標	No	観点	詳細							
	1.	A:知識・理解	講義や予習・復習を通じて新たな知識を得る。							
	2.	B:専門的技能	議論の対象について、何が重要であるかを批判的に考察する。							
	3.	C:汎用的技能	議論の対象について自らの考え方を積極的に模索し、示す。							
	4.	D:態度・志向性	与えられた課題をより広い文脈で捉え思考する。							
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	イントロダクション	○							
	2.	聖書の視覚化——ヴェネツィア、サン・マルコ聖堂の《天地創造》と《原罪》	○							
	3.	主題と変奏——ルネサンスの《受胎告知図》をめぐって	○							
	4.	『ダ・ヴィンチ・コード』とレオナルド《最後の晩餐》	○							
	5.	ルネサンス絵画に見るキリスト教の死生観	○							
	6.	都市と守護聖人——カルパッチョ《聖マルコのライオン》をめぐって	○							
	7.	キリスト教中世における異教神の残存	○							
	8.	ボッティチェッリの神話画——《ヴィーナスの誕生》と《プリマヴェーラ》	○							
	9.	《ナスタジオ・デリ・オネスティの物語》——異時同図について	○							
	10.	神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ1——ガラテアの開廊	○							
	11.	神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ2——プシュケの開廊	○							
	12.	神話画尽し——パラッツォ・ファルネーゼの神話画のギャラリー	○							
授業以外での学習にあたって	積極的に美術館に足を運びましょう。とくに4～6月に福岡市博物館で開催される「レオナルド・ダ・ヴィンチとアンギアーリの戦い」展はイタリア・ルネサンスを扱っており、おすすめです。									
テキスト	特になし。									
参考書	講義中に紹介する。									
授業資料	適宜、配布する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	◎					100%
成績評価基準に関わる補足事項										

ループリック	
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2018-04-09 17:35:58.729



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	西洋初期近代／北方絵画史
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	青野 純子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2303
その他 (自由記述欄)	

「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。

「初期近代北方ヨーロッパ絵画を中心とした芸術学入門」

絵画をどのように見て、いかに理解するのか。美術史研究の基礎である絵画の見方を「授業計画」であげたテーマに沿って学んでいく。授業中に取り上げる対象は初期近代(17世紀まで)のオランダ、ベルギー地方のヨーロッパ絵画を中心とする。年代ごとに作家・作品を扱うのではなく、絵画作品を目の前にしたときに立ち上がってくる諸々の問題をどうとらえ、分析・議論していくのか、そうした絵画との対話を出発点に考察を深めていく。

授業概要

In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.

Introduction to Art Studies, with a special focus on Netherlandish painting of the early modern period.

This course equips students with the fundamental skills and perspectives to understand Northern European art of

	the early modern period. Students learn how to look at and critically approach works of art in the cultural and social context in which they were created, viewed and evaluated. The course is designed to provide students with broad, humanistic knowledge and an analytic way of thinking, which serves a perfect preparation for advanced studies in a wide range of disciplines.																																								
キーワード	西洋美術史、絵画史、美術史方法論、オランダ絵画																																								
履修条件等	特になし。ただ、趣味としての美術鑑賞ではなく、学問としての美術史を学ぶことを目的とするので、作品を批判的・総合的に理解し、自分なりの絵画の見方を積極的に模索したいという意欲のある学生を求める(下記「成績評価基準に関する補足事項」も必ず参照のこと)。ただし、受講希望者が教員が決める定員をこえる際には、その都度検討した上で、受講制限をすることになるので要注意。また、必ずパソコンを持参のこと。																																								
履修に必要な知識・能力	美術史に関する知識は問わないが、芸術に関心があり、絵画を見るのが好きだという態度が必須。																																								
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>知識</td> <td>講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>批判的考察</td> <td>議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>主体的学修</td> <td>議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。	2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。	4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																									
No	観点	詳細																																							
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。																																							
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。																																							
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。																																							
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																																							
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。</td> <td></td> <td>美術館訪問</td> <td>各自で美術館見学、後日レポートを提出</td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○			2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり		3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり		4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり		5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり		6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり		7.	●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。		美術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																					
1.	初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○																																							
2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり																																						
3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり																																						
4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり																																						
5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり																																						
6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり																																						
7.	●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。		美術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出																																					
授業以外での学習にあたって	<p>次の授業の準備として課題を出すこともあるので、その場合には予習してから授業にのぞむこと。</p> <p>中間テストは事前にテスト範囲を提示するので当日までに準備をし、また、レポートでは、課題にそった内容を各自準備し、期限までに提出のこと。提出期限をすぎたものは受領いたしません。</p> <p>また、本授業では、「授業計画」にあるように、(教員の引率ではなく)各自、美術館・展覧会訪問を行ってもらう</p>																																								

	め、「学外(教室外)」活動を含む授業であります。																																																																																
テキスト	授業中に適宜指示・配布する。(下記の「参考書」も参照のこと)																																																																																
参考書	授業中に適宜指示する。e-portfolio system上に参考文献表をアップロードしてありますので、各自参照のこと。また伊都中央図書館の「課題文献コーナー」の「芸術学入門」(青野)のコーナーに参考文献の一部を常時置いてありますので、参照のこと。																																																																																
授業資料	適宜配布するが、基本的には授業中に各自ノートを取る。授業内で用いた画像、資料などはコピーライトの関係で授業時間外には閲覧できないため、注意すること。(授業中に用いたパワーポイントは基本的にダウンロードなどはできません)。																																																																																
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考(欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ40(期末レポートの可能性もあり)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ20(美術館レポート)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>小テストと合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td>中間テスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ30</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)		◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)		◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど		◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)																							○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど	中間テスト									およそ30
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)																																																																								
	◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)																																																																								
	◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど																																																																								
	◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)																																																																								
		○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど																																																																								
中間テスト									およそ30																																																																								
成績評価基準に関わる補足事項	<p>芸術学入門は「絵を見てなんとなく感想を言う」ような授業ではなく、積極的に学問としての美術史とその方法論を学ぶことを求めます。成績評価はその主体的学修と批判的考察を重視いたします。授業内小テスト、中間テスト、美術館レポートを課し、期末にはレポート課題または教場試験を課します。</p> <p>注意1:) 中間テストおよび美術館レポートを課しますが、それを提出した学生にのみ、期末レポートの提出資格または期末試験の受験資格を与えます。</p> <p>注意2:) 「不正行為(カンニング、出欠に関する不正、レポートにおける典拠の不明確な「切り貼り」行為と剽窃、等)」は一度であっても単位習得を妨げる行為です。『基幹教育 履修要項』11頁の「不正受験行為・指示違反等について」を参照のこと。</p>																																																																																
ルーブリック	芸術学入門Aonoルーブリック.pdf																																																																																
学習相談	事前に予約のうえ随時行う。連絡先は授業中に指示。																																																																																
添付ファイル																																																																																	
その他																																																																																	
更新日付	2018-04-04 15:13:22.7																																																																																



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	米村 典子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2304
その他 (自由記述欄)	<p>この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトを参照してください。</p> <p>http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html</p>

PAGE TOP

授業概要	<p>「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というところか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。</p> <p>*****</p> <p>この授業では、西洋の芸術作品を主たる対象として講義を進めるが、特定の時代や芸術家や作品について論じるのではない。教室では、世界各地に散らばった様々の時代の芸術作品が次々とほぼ同じ大きさで映写される。また、本や雑誌などでは印刷された画像が、コンピュータ上ではデジタルな画像が、作品として示される。そのために、われわれは絵画や彫刻が「モノ」であることを忘れがちである。「誰が描いたのか」、「何が描かれているのか」ではなく、「絵画とは何か」、「彫刻とは何か」を物質的な成り立ちや作品を取り巻く環境などから考察していくことで、芸術に関する理解を深めることを目指す。</p> <p>In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course</p>
------	--

	we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.																																																																																			
キーワード	絵画, 彫刻, 写真, 美術館																																																																																			
履修条件等	特別な条件はないが, できるだけ多くの視覚芸術作品に接するよう心がけること.																																																																																			
履修に必要な知識・能力	西洋美術についての知識は特に必要とはしない. しかし, 視覚芸術に関心があることは必須条件である. この授業はEU研究ディプロマプログラムの科目でもあり, 西洋とくにEUに関心がある人に適している.																																																																																			
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>知識</td> <td>講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>批判的考察</td> <td>議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>主体的学修</td> <td>議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.</td> </tr> </tbody> </table>				No	観点	詳細	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.	2.	批判的考察	議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.	4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.																																																																	
	No	観点	詳細																																																																																	
	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.																																																																																	
	2.	批判的考察	議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.																																																																																	
	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.																																																																																	
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.																																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間 外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する * 以下の授業計画は変更の可能性がある.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>モノとしての絵画(1): 支持体, 絵の具, 顔料, メディウム</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>モノとしての絵画(2): タブロー, テクノロジーの発展と芸術</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>フレームと絵画: 額縁, 印象派</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル * 小テスト課題と実施要領を発表する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間 外学習	1.	オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する * 以下の授業計画は変更の可能性がある.	○			2.	モノとしての絵画(1): 支持体, 絵の具, 顔料, メディウム	○			3.	モノとしての絵画(2): タブロー, テクノロジーの発展と芸術	○			4.	モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ	○			5.	オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン	○			6.	美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.	○			7.	美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.				8.	カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット	○			9.	写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト	○			10.	「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法	○			11.	フレームと絵画: 額縁, 印象派	○			12.	モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル * 小テスト課題と実施要領を発表する.	○			13.	モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画	○			14.	小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.	○			15.	授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど	○		
	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間 外学習																																																																															
	1.	オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する * 以下の授業計画は変更の可能性がある.	○																																																																																	
	2.	モノとしての絵画(1): 支持体, 絵の具, 顔料, メディウム	○																																																																																	
	3.	モノとしての絵画(2): タブロー, テクノロジーの発展と芸術	○																																																																																	
	4.	モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ	○																																																																																	
	5.	オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン	○																																																																																	
	6.	美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.	○																																																																																	
	7.	美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.																																																																																		
	8.	カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット	○																																																																																	
	9.	写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト	○																																																																																	
	10.	「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法	○																																																																																	
	11.	フレームと絵画: 額縁, 印象派	○																																																																																	
	12.	モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル * 小テスト課題と実施要領を発表する.	○																																																																																	
	13.	モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画	○																																																																																	
14.	小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.	○																																																																																		
15.	授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど	○																																																																																		

授業以外での学習にあたって																																																																																	
テキスト	なし.																																																																																
参考書	授業中に配布するプリントで紹介する.																																																																																
授業資料	毎回プリントを配布する.																																																																																
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)												◎	◎	◎	◎					40%		◎	◎	◎	◎					30%																						◎	◎	◎	◎					20%										10%
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																																																																								
	◎	◎	◎	◎					40%																																																																								
	◎	◎	◎	◎					30%																																																																								
	◎	◎	◎	◎					20%																																																																								
									10%																																																																								
成績評価基準に関わる補足事項																																																																																	
ルーブリック	芸術学入門のルーブリック.pdf																																																																																
学習相談	適宜応じる。(要予約)																																																																																
添付ファイル																																																																																	
その他	教室の収容人数を超えた場合、受講制限を行う可能性がある。																																																																																
更新日付	2018-03-19 10:39:50.829																																																																																



シラバス参照

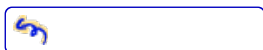


講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいのが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。</p> <p>(本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。</p> <p>This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.</p>
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	<ol style="list-style-type: none"> 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 (公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 遅刻・早退・私語は認めない。

	6. 授業回数の3分の2を超える出席を成績認定の条件とする。 7. 授業開始後15分以後の遅刻は出席扱いとはならない。																																																		
履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。																																																		
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>思考力</td> <td>日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>表現力</td> <td>自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。	2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。	3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																																				
No	観点	詳細																																																	
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。																																																	
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。																																																	
3.	C:汎用的技能																																																		
4.	D:態度・志向性																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td> <p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のことを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いないで、表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p> </td> <td></td> <td>レポート作成</td> <td>レポートの課題について予め考えておくこと。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)</td> <td>○</td> <td>第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(1)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(3)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	<p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のことを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いないで、表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。	2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。		3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○			4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○			5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○			6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○			7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○			8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○			9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																															
1.	<p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のことを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いないで、表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。																																															
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。																																																
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○																																																	
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○																																																	
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○																																																	
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○																																																	
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○																																																	
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○																																																	
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○																																																	
授業以外での学習にあたって																																																			
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)																																																		
	講義の中でも適宜指示するが、まずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。																																																		

参考書	<p>戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年</p> <p>配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。</p>																																																																						
授業資料																																																																							
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 331 341 488">評価方法・観点</th> <th data-bbox="346 331 435 488">観点No.1</th> <th data-bbox="440 331 529 488">観点No.2</th> <th data-bbox="534 331 624 488">観点No.3</th> <th data-bbox="628 331 718 488">観点No.4</th> <th data-bbox="722 331 812 488">観点No.5</th> <th data-bbox="817 331 906 488">観点No.6</th> <th data-bbox="911 331 1000 488">観点No.7</th> <th data-bbox="1005 331 1094 488">観点No.8</th> <th data-bbox="1099 331 1189 488">備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 495 341 544"></td> <td data-bbox="346 495 435 544">◎</td> <td data-bbox="440 495 529 544">◎</td> <td data-bbox="534 495 624 544"></td> <td data-bbox="628 495 718 544"></td> <td data-bbox="722 495 812 544"></td> <td data-bbox="817 495 906 544"></td> <td data-bbox="911 495 1000 544"></td> <td data-bbox="1005 495 1094 544"></td> <td data-bbox="1099 495 1189 544">55</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 551 341 600"></td> <td data-bbox="346 551 435 600">◎</td> <td data-bbox="440 551 529 600">◎</td> <td data-bbox="534 551 624 600"></td> <td data-bbox="628 551 718 600"></td> <td data-bbox="722 551 812 600"></td> <td data-bbox="817 551 906 600"></td> <td data-bbox="911 551 1000 600"></td> <td data-bbox="1005 551 1094 600"></td> <td data-bbox="1099 551 1189 600">30</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 607 341 656"></td> <td data-bbox="346 607 435 656"></td> <td data-bbox="440 607 529 656"></td> <td data-bbox="534 607 624 656"></td> <td data-bbox="628 607 718 656"></td> <td data-bbox="722 607 812 656"></td> <td data-bbox="817 607 906 656"></td> <td data-bbox="911 607 1000 656"></td> <td data-bbox="1005 607 1094 656"></td> <td data-bbox="1099 607 1189 656"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 663 341 712"></td> <td data-bbox="346 663 435 712"></td> <td data-bbox="440 663 529 712"></td> <td data-bbox="534 663 624 712"></td> <td data-bbox="628 663 718 712"></td> <td data-bbox="722 663 812 712"></td> <td data-bbox="817 663 906 712"></td> <td data-bbox="911 663 1000 712"></td> <td data-bbox="1005 663 1094 712"></td> <td data-bbox="1099 663 1189 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 719 341 768"></td> <td data-bbox="346 719 435 768"></td> <td data-bbox="440 719 529 768"></td> <td data-bbox="534 719 624 768"></td> <td data-bbox="628 719 718 768"></td> <td data-bbox="722 719 812 768"></td> <td data-bbox="817 719 906 768"></td> <td data-bbox="911 719 1000 768"></td> <td data-bbox="1005 719 1094 768"></td> <td data-bbox="1099 719 1189 768"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 775 341 824"></td> <td data-bbox="346 775 435 824"></td> <td data-bbox="440 775 529 824"></td> <td data-bbox="534 775 624 824"></td> <td data-bbox="628 775 718 824"></td> <td data-bbox="722 775 812 824"></td> <td data-bbox="817 775 906 824"></td> <td data-bbox="911 775 1000 824"></td> <td data-bbox="1005 775 1094 824"></td> <td data-bbox="1099 775 1189 824">15</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)		◎	◎							55		◎	◎							30																																								15
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																																																														
	◎	◎							55																																																														
	◎	◎							30																																																														
									15																																																														
成績評価基準に関わる補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。 2. 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。 3. 病欠(要略式診断書)のほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。 																																																																						
ルーブリック																																																																							
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。																																																																						
添付ファイル																																																																							
その他	<p>このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の嚶鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。)</p> <p><自己登録方法>九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1. 「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。</p> <p>本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html</p> <p>なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。</p>																																																																						
更新日付	2018-04-18 12:42:51.923																																																																						



シラバス参照

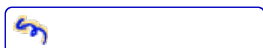


講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいのが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。</p> <p>(本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。</p> <p>This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.</p>
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	<ol style="list-style-type: none"> 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 (公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 遅刻・早退・私語は認めない。

	6. 授業回数の3分の2を超える出席を成績認定の条件とする。 7. 授業開始後15分以後の遅刻は出席扱いとはならない。																																																		
履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。																																																		
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>思考力</td> <td>日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>表現力</td> <td>自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。	2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。	3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																																				
No	観点	詳細																																																	
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学的」思考に触れる。																																																	
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。																																																	
3.	C:汎用的技能																																																		
4.	D:態度・志向性																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td> <p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いなくて表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p> </td> <td></td> <td>レポート作成</td> <td>レポートの課題について予め考えておくこと。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)</td> <td>○</td> <td>第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(1)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(2)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>ゲティア問題の展開と再検討(3)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	<p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いなくて表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。	2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。		3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○			4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○			5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○			6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○			7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○			8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○			9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																															
1.	<p>ガイダンスとレポート作成；</p> <p><レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。</p> <p>Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。</p> <p>Q2:あなた自身は知らない・知らないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。)</p> <p>Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい。</p> <p>Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いなくて表現してみなさい。Q3で選択しなかった10個の事例を用いること。</p> <p>Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。																																															
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。																																																
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○																																																	
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○																																																	
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○																																																	
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○																																																	
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○																																																	
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○																																																	
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○																																																	
授業以外での学習にあたって																																																			
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)																																																		
	講義の中でも適宜指示するが、まずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。																																																		

参考書	<p>戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年</p> <p>配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。</p>																																																																						
授業資料																																																																							
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 331 341 488">評価方法・観点</th> <th data-bbox="346 331 435 488">観点No.1</th> <th data-bbox="440 331 529 488">観点No.2</th> <th data-bbox="534 331 624 488">観点No.3</th> <th data-bbox="628 331 718 488">観点No.4</th> <th data-bbox="722 331 812 488">観点No.5</th> <th data-bbox="817 331 906 488">観点No.6</th> <th data-bbox="911 331 1000 488">観点No.7</th> <th data-bbox="1005 331 1094 488">観点No.8</th> <th data-bbox="1099 331 1189 488">備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 495 341 544"></td> <td data-bbox="346 495 435 544">◎</td> <td data-bbox="440 495 529 544">◎</td> <td data-bbox="534 495 624 544"></td> <td data-bbox="628 495 718 544"></td> <td data-bbox="722 495 812 544"></td> <td data-bbox="817 495 906 544"></td> <td data-bbox="911 495 1000 544"></td> <td data-bbox="1005 495 1094 544"></td> <td data-bbox="1099 495 1189 544">55</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 551 341 600"></td> <td data-bbox="346 551 435 600">◎</td> <td data-bbox="440 551 529 600">◎</td> <td data-bbox="534 551 624 600"></td> <td data-bbox="628 551 718 600"></td> <td data-bbox="722 551 812 600"></td> <td data-bbox="817 551 906 600"></td> <td data-bbox="911 551 1000 600"></td> <td data-bbox="1005 551 1094 600"></td> <td data-bbox="1099 551 1189 600">30</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 607 341 656"></td> <td data-bbox="346 607 435 656"></td> <td data-bbox="440 607 529 656"></td> <td data-bbox="534 607 624 656"></td> <td data-bbox="628 607 718 656"></td> <td data-bbox="722 607 812 656"></td> <td data-bbox="817 607 906 656"></td> <td data-bbox="911 607 1000 656"></td> <td data-bbox="1005 607 1094 656"></td> <td data-bbox="1099 607 1189 656"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 663 341 712"></td> <td data-bbox="346 663 435 712"></td> <td data-bbox="440 663 529 712"></td> <td data-bbox="534 663 624 712"></td> <td data-bbox="628 663 718 712"></td> <td data-bbox="722 663 812 712"></td> <td data-bbox="817 663 906 712"></td> <td data-bbox="911 663 1000 712"></td> <td data-bbox="1005 663 1094 712"></td> <td data-bbox="1099 663 1189 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 719 341 768"></td> <td data-bbox="346 719 435 768"></td> <td data-bbox="440 719 529 768"></td> <td data-bbox="534 719 624 768"></td> <td data-bbox="628 719 718 768"></td> <td data-bbox="722 719 812 768"></td> <td data-bbox="817 719 906 768"></td> <td data-bbox="911 719 1000 768"></td> <td data-bbox="1005 719 1094 768"></td> <td data-bbox="1099 719 1189 768"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 775 341 824"></td> <td data-bbox="346 775 435 824"></td> <td data-bbox="440 775 529 824"></td> <td data-bbox="534 775 624 824"></td> <td data-bbox="628 775 718 824"></td> <td data-bbox="722 775 812 824"></td> <td data-bbox="817 775 906 824"></td> <td data-bbox="911 775 1000 824"></td> <td data-bbox="1005 775 1094 824"></td> <td data-bbox="1099 775 1189 824">15</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)		◎	◎							55		◎	◎							30																																								15
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																																																														
	◎	◎							55																																																														
	◎	◎							30																																																														
									15																																																														
成績評価基準に関わる補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。 病欠(要略式診断書)のほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。 																																																																						
ルーブリック																																																																							
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。																																																																						
添付ファイル																																																																							
その他	<p>このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の嚶鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。)</p> <p><自己登録方法>九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1.「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。</p> <p>本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html</p> <p>なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。</p>																																																																						
更新日付	2018-04-18 12:45:01.984																																																																						



シラバス参照



講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	一神教の倫理思想
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	横田 理博
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2404
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>世界の様々な倫理思想について理解する。今日の国際紛争の原因のひとつとなっている、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教という三つの宗教思想の歴史的関係や思想上の共通点と相違点について、聖典の内容を中心として理解を深める。それとともに、自分自身の生き方について見つめ直す手がかりを探る。</p> <p>This lecture course is designed to introduce students to the ethical thoughts of the Bible and the Koran.</p>		
キーワード	聖書 クルアーン		
履修条件等	なし		
履修に必要な知識・能力	日本語能力		
到達目標	No	観点	詳細
	1.	A:知識・理解	
	2.	B:専門的技能	

	3.	C:汎用的技能			
	4.	D:態度・志向性			
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	序論	○		
	2.	ヘブライ語聖書の倫理思想	○		
	3.	ギリシア語聖書の倫理思想	○		
	4.	クルアーンの倫理思想	○		
	5.	総括	○		
授業以外での学習にあたって	講義で紹介する図書を読んでみて、自分なりにいろいろと考えをめぐらせてもらいたい。				
テキスト	なし				
参考書	『聖書』(新共同訳) 『福音書』(岩波文庫) 『コーラン』(中公クラシックス)				
授業資料	適宜、プリントを配布する。				
成績評価					
成績評価基準に関わる補足事項					
ルーブリック					
学習相談					
添付ファイル					
その他					
更新日付	2018-04-03 18:31:54.159				



シラバス参照



講義科目名	経済史入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1521J
講義題目	歴史から読み解く人類の経済成長
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2407
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。</p> <p>経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とを通じて、我々が現在抱える様々な問題を、経済の歴史的歩みを辿ることによって考察する。経済学部の専攻科目【経済史】を担当する各教員が、九州大学に入学してきた一年生諸君に、様々な個別経済現象との「歴史的対話」を通じて、我々が今のような人類史の地平に立っているのか、考える契機を提供することがこの授業の主目的である。</p> <p>In the 21st century, new difficulties came to face us, such as the gap between the North and the South in the World, that between rich and poor even within a developed country, and worldwide environmental problems, etc., but it is not easy to find the reason and to arrive at the solution of them. The main purpose of this course is to offer you some opportunities, by lecture on the European Economic History and/or on the Japanese Economic History, to be able to understand how the present problems arose in the course of human history, and to consider by yourself on what historical stage we are standing.</p>
キーワード	西洋経済史、世界経済史、グローバル・ヒストリー
履修条件等	特になし。

履修に必要な知識・能力	高等学校までの「世界史」に関する基礎知識があると理解が容易となる講義である。また、社会・経済的事象の原因と結果に関する関係を読みほく能力や、自ら考えたことを、正確な文章にする能力が求められる。				
到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解	経済史の史実を理解し、歴史的現象の相互関連を必要な用語を用いて説明できる。		
	2.	B:専門的技術			
	3.	C:汎用的技能	人間の経済的歴史を史実に基づいて的確に説明でき、自己の見解を明瞭に述べることができる。		
	4.	D:態度・志向性	経済の史的現象を深く洞察することによって、現代的問題関心を深めることができる。		
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	導入部(第1回) *オリエンテーション 授業の進め方、資料入手の方法などの説明 *キックオフレクチャー 「経済史」とは何か	○		
	2.	第I部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
	3.	第I部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
	4.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	5.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	6.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	7.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	8.	第8回 中間小テスト(予定) 期日は変更することがある	○		
	9.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	10.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	11.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	12.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	13.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
	14.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
	15.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
授業以外での学習にあたって	パワーポイントによるスライド資料を事前に配信するので、予習と復習を十分にすることができる。				
テキスト	特に定めない。パワーポイントを中心としたノート講義とする。				

参考書	(1) 明石和康『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』(岩波ジュニア新書)・・・平易な入門書。(2) 奥西孝至・鳩澤歩(他)『西洋経済史』(有斐閣アルマ)・・・西洋経済史の基礎的テキスト。(3) 金井雄一・中西聡(他)『世界経済の歴史ーグローバル経済史入門ー』(名古屋大学出版会)・・・上級向けテキスト																														
授業資料	パワーポイント資料を事前に配信。下記のURLから各自ダウンロードすること(「九州大学経済学部 藤井美男」で検索可能)。詳細は初回授業中に説明するので、初回は必ずPCを持参すること。 http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm																														
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)		◎		◎	◎							○		○	○					
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																						
	◎		◎	◎																											
	○		○	○																											
成績評価基準に関わる補足事項	期末試験の成績を90%程度、小テストの成績を10%程度で評価する。																														
ルーブリック	前期2018(H30)経済史入門ルーブリック.pdf																														
学習相談	随時受付。事前にメールで予約のこと。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp																														
添付ファイル																															
その他	授業中は事前の配信資料以外にノート筆記の内容があるので、受講に当たってはノート筆記の準備を常にしておくこと。なお、本講義は経済学部生にとつての「推奨科目」のため、受講希望者が教室の収容数を超える場合、他学部生に対して受講制限を設ける場合がある。この科目は『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EU-DPs)』科目としても開講するものである。 【EU-DPs 科目分類】 (B) 歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。																														
更新日付	2018-03-17 10:35:27.779																														



シラバス参照



講義科目名	地理学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1231J
講義題目	絵地図のなかの地理思想
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	今里 悟之
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>地図といえばふつう、道路地図や旅行案内図、地理の授業で習った地形図などを思い浮かべるだろう。これらは、どこに何があって、そこへ行くにはどの道を通ればよいか、といったことから示した実用本位の地図である。しかし、絵地図は、それを描いた人々のものの見方や考え方、彼ら自身が生活する環境のとらえ方や、遠くの世界への想像力や空想力までも表現している。この講義では、古今東西の人々が描いた、さまざまな絵地図に親しんでもらうために、日本、アジア、太平洋、ヨーロッパ、アメリカなどの絵地図を、1回ごとに紹介していく。それを通じて、地理学とは、単なる暗記科目ではなく、人間の文化や思想と深く関わる学問でもあることを示したい。</p> <p>This lecture course is designed to introduce students to geographical thought represented on old and folk maps in various regions including Asia, Oceania, Europe, and North America.</p>						
キーワード							
履修条件等							
履修に必要な知識・能力							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A: 知識・理解</td> <td>地図に表れた様々な時代や地域の地理思想について、地理思想とは何かということも含めて理解できる。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A: 知識・理解	地図に表れた様々な時代や地域の地理思想について、地理思想とは何かということも含めて理解できる。
No	観点	詳細					
1.	A: 知識・理解	地図に表れた様々な時代や地域の地理思想について、地理思想とは何かということも含めて理解できる。					

到達目標	2.	B:専門的技能								
	3.	C:汎用的技能								
	4.	D:態度・志向性								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	授業全体の概要説明	○							
	2.	北アメリカ先住民の砂絵地図〔山の歌踊ほか〕	○							
	3.	オーストラリア・アボリジニの絵画〔ジャルラクピの風景〕	○							
	4.	南太平洋マーシャル諸島の海図〔スティックチャート〕	○							
	5.	日本の近世都市図と宮都プラン〔新撰増補京大絵図〕	○							
	6.	朝鮮の都城図と風水思想〔首善全図〕	○							
	7.	中国の世界図と中華思想〔古今華夷区域惣要図〕	○							
	8.	インドの仏教系世界図〔法隆寺蔵五天竺図〕	○							
	9.	日本の参詣曼荼羅と山岳信仰〔立山曼荼羅〕	○							
	10.	中世イングランドの世界図〔ヘレフォード図〕	○							
	11.	ヨーロッパの冒険小説と空想地図〔ガリバー旅行記挿絵〕	○							
	12.	アメリカの首都計画図〔ランファンマップ〕	○							
	13.	近代アメリカ文学の架空地図〔オズの虹の国想像図〕	○							
	14.	世界の古地図に見る日本〔混一疆理歴代国都之図ほか〕	○							
	15.	授業全体のまとめ	○							
授業以外での学習にあたって										
テキスト	特に指定しない。									
参考書	授業中に示す。									
授業資料	毎回、スクリーン(パワーポイント)とプリントを使用する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎								
	その他									

	(自由記述1)								
	その他(自由記述2)								
	その他(自由記述3)								
成績評価基準に関わる補足事項									
ループリック									
学習相談									
添付ファイル									
その他	授業初回に受講希望者が教室の収容人数を超えた場合、止むを得ず抽選による履修人数制限を行う。受講希望者は初回に必ず出席のこと。								
更新日付	2018-04-02 13:55:14.871								



シラバス参照

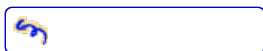


講義科目名	地理学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1231J
講義題目	都市地理学
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	山下 潤
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれません。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきました。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきました。地理学とは、以上のような人間集団と環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるでしょう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法について考えます。</p> <p>特に本講義では欧州・スウェーデンの地域構造に関する人文地理学の視座と、当該地域での環境都市政策の状況について講義します。</p>
キーワード	地理的思考、環境、地域、空間、場所、欧州、スウェーデン、環境都市政策
履修条件等	特になし
履修に必要な	特になし

知識・能力																					
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学における基本概念を正しく理解すること ・地理学史を正しく理解すること ・地理学における研究方法を、事例研究を通して正しく理解すること </td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:専門的技術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学における分析方法の基礎を身につけること ・地理的資料を使った分析の基礎を身につけること </td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技術</td> <td>・地理学の様々な研究事例を学習することを通して、問題設定と方法論から資料収集、分析、結果と考察に至る、学問的な問題解決の考え方を身につけること</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td>・地理的思考を身につけ、必要に際して学問や日常における問題解決に運用する態度を身につけること</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A:知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における基本概念を正しく理解すること ・地理学史を正しく理解すること ・地理学における研究方法を、事例研究を通して正しく理解すること 	2.	B:専門的技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における分析方法の基礎を身につけること ・地理的資料を使った分析の基礎を身につけること 	3.	C:汎用的技術	・地理学の様々な研究事例を学習することを通して、問題設定と方法論から資料収集、分析、結果と考察に至る、学問的な問題解決の考え方を身につけること	4.	D:態度・志向性	・地理的思考を身につけ、必要に際して学問や日常における問題解決に運用する態度を身につけること					
	No	観点	詳細																		
	1.	A:知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における基本概念を正しく理解すること ・地理学史を正しく理解すること ・地理学における研究方法を、事例研究を通して正しく理解すること 																		
	2.	B:専門的技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における分析方法の基礎を身につけること ・地理的資料を使った分析の基礎を身につけること 																		
	3.	C:汎用的技術	・地理学の様々な研究事例を学習することを通して、問題設定と方法論から資料収集、分析、結果と考察に至る、学問的な問題解決の考え方を身につけること																		
4.	D:態度・志向性	・地理的思考を身につけ、必要に際して学問や日常における問題解決に運用する態度を身につけること																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>地理学を基礎とする政策研究の基本概念と視点 (1～2回程度)</td> <td>○</td> <td></td> <td>講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>地理学を基礎とする政策研究の現在 (11～12回程度)</td> <td>○</td> <td></td> <td>講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>これからの地理学 (1回程度)</td> <td>○</td> <td></td> <td>講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。</td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	地理学を基礎とする政策研究の基本概念と視点 (1～2回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。	2.	地理学を基礎とする政策研究の現在 (11～12回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。	3.	これからの地理学 (1回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。
	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																
	1.	地理学を基礎とする政策研究の基本概念と視点 (1～2回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。																
	2.	地理学を基礎とする政策研究の現在 (11～12回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。																
3.	これからの地理学 (1回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。																	
授業以外での学習にあたって	自主的に参考文献にあたり、積極的に学習することを推奨する																				
テキスト	山下潤(2016)『環境都市政策入門』古今書院																				
参考書	個別授業で紹介する																				
授業資料	個別授業で紹介する																				

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		◎	◎	○	○					
	その他 (自由記述 1)									
	その他 (自由記述 2)									
	その他 (自由記述 3)									
成績評価基準 に関わる補足 事項										
ループリック										
学習相談	質問や学習相談の時間については、個別授業において指示する									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2018-04-03 10:32:33.833									



シラバス参照



講義科目名	地理学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1231J
講義題目	都市地理学
授業科目区分	文系ディシプリン科目
開講年度	2018
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2
担当教員	山下 潤
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>地理的思考の出発点には、生活のために身近な環境をよく知るという必要性とともに、山の稜線や地平線の彼方に、どんな世界があるのかを知りたいと思う好奇心があったといえるかもしれません。人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきました。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきました。地理学とは、以上のような人間集団と環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえるでしょう。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法について考えます。</p> <p>特に本講義では欧州・スウェーデンの地域構造に関する人文地理学の視座と、当該地域での環境都市政策の状況について講義します。</p>
キーワード	地理的思考、環境、地域、空間、場所、欧州、スウェーデン、環境都市政策
履修条件等	特になし
履修に必要な	特になし

知識・能力					
到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における基本概念を正しく理解すること ・地理学史を正しく理解すること ・地理学における研究方法を、事例研究を通して正しく理解すること 		
	2.	B:専門的技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学における分析方法の基礎を身につけること ・地理的資料を使った分析の基礎を身につけること 		
	3.	C:汎用的技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学の様々な研究事例を学習することを通して、問題設定と方法論から資料収集、分析、結果と考察に至る、学問的な問題解決の考え方を身につけること 		
	4.	D:態度・志向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的思考を身につけ、必要に際して学問や日常における問題解決に運用する態度を身につけること 		
授業計画	No	進捗・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	地理学を基礎とする政策研究の基本概念と視点 (1～2回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。
	2.	地理学を基礎とする政策研究の現在 (11～12回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。
	3.	これからの地理学 (1回程度)	○		講義内容を復習するとともに、提示した参考文献にあたる。
授業以外での学習にあたって	自主的に参考文献にあたり、積極的に学習することを推奨する				
テキスト	山下潤(2016)『環境都市政策入門』古今書院				
参考書	個別授業で紹介する				
授業資料	個別授業で紹介する				

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)
		◎	◎	○	○					
	その他 (自由記述 1)									
	その他 (自由記述 2)									
	その他 (自由記述 3)									
成績評価基準 に関わる補足 事項										
ループリック										
学習相談	質問や学習相談の時間については、個別授業において指示する									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2018-04-03 10:34:04.41									



シラバス参照

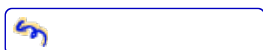


講義科目名	大学とは何か I
科目ナンバリングコード	KED-GES1184J
講義題目	—大学の歴史を中心に—
授業科目区分	総合科目
開講年度	2018
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1
担当教員	折田 悦郎
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>現在、東京大学・京都大学等の旧帝国大学系の大学や、早稲田大学・慶應大学・同志社大学といった伝統的私立大学では、いわゆる「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されています。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、約17年の歴史を持っています。法人化を迎えた国立大学は、常に自らの歴史を振り返り、有るべき姿を模索し続ける必要があります。当科目はこのような視点に立ち、九州大学の歴史と大学を巡るいくつかの問題について考えます。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まりましたが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、更に、明治初期の福岡医学校まで遡ります。百四十年を越える伝統ある大学です。わが国の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考えます。</p> <p>Nowadays, in Japan's former Imperial Universities as well as in those amongst its private universities which have a long and distinguished tradition, as part of academic education regular lectures on what is called 'The history of one's own educational institution' are given. Within the ranks of this country's National Universities, Kyūshū University was the very first to introduce this subject of education, that allows students to learn about the history of their Alma mater, aims to promote their understanding of it, in 1997. A university must always reflect on its own history, needs to continuously explore how to become what it ought to be. With such a perspective in mind, in this class we, all together, will discuss different kinds of problems and issues related to Kyūshū University and its history.</p>
キーワード	高等教育制度 九州大学史
履修条件等	
履修に必要な	

知識・能力																																														
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:専門的技能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A:知識・理解		2.	B:専門的技能		3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																															
	No	観点	詳細																																											
	1.	A:知識・理解																																												
	2.	B:専門的技能																																												
	3.	C:汎用的技能																																												
4.	D:態度・志向性																																													
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進捗・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>4月11日 はじめに(オリエンテーション)・高等教育制度史概説Ⅰ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>4月18日 大学のはじまりと歴史的展開 藤岡健太郎 大学文書館准教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>4月25日 帝国大学と東アジアの近代 永島広紀 韓国研究センター教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>5月9日 高等教育制度史概説Ⅱ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>5月16日 大学生とはなにか(1)―「学徒出陣」と「大学紛争」から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>5月23日 大学とキャンパス空間 山野善郎氏(建築史Archist・非常勤講師)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>5月30日 新制大学の誕生と九州大学 井上美香子 福岡女学院大学学院資料室講師</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>6月6日 大学生とはなにか(2)―「大衆化」し「下流化」している大学の中から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進捗・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	4月11日 はじめに(オリエンテーション)・高等教育制度史概説Ⅰ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授	○			2.	4月18日 大学のはじまりと歴史的展開 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○			3.	4月25日 帝国大学と東アジアの近代 永島広紀 韓国研究センター教授	○			4.	5月9日 高等教育制度史概説Ⅱ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授	○			5.	5月16日 大学生とはなにか(1)―「学徒出陣」と「大学紛争」から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○			6.	5月23日 大学とキャンパス空間 山野善郎氏(建築史Archist・非常勤講師)	○			7.	5月30日 新制大学の誕生と九州大学 井上美香子 福岡女学院大学学院資料室講師	○			8.	6月6日 大学生とはなにか(2)―「大衆化」し「下流化」している大学の中から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○		
	No	進捗・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																									
	1.	4月11日 はじめに(オリエンテーション)・高等教育制度史概説Ⅰ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授	○																																											
	2.	4月18日 大学のはじまりと歴史的展開 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○																																											
	3.	4月25日 帝国大学と東アジアの近代 永島広紀 韓国研究センター教授	○																																											
	4.	5月9日 高等教育制度史概説Ⅱ(日本の高等教育) 折田悦郎 大学文書館教授	○																																											
	5.	5月16日 大学生とはなにか(1)―「学徒出陣」と「大学紛争」から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○																																											
	6.	5月23日 大学とキャンパス空間 山野善郎氏(建築史Archist・非常勤講師)	○																																											
	7.	5月30日 新制大学の誕生と九州大学 井上美香子 福岡女学院大学学院資料室講師	○																																											
8.	6月6日 大学生とはなにか(2)―「大衆化」し「下流化」している大学の中から考えてみる― 藤岡健太郎 大学文書館准教授	○																																												
授業以外での学習にあたって																																														
テキスト	教科書として新谷恭明・折田悦郎編『大学とはなにか―九州大学に学ぶ人々へ―』(海鳥社)を使用します。 また、講義では資料を配付することもあります。																																													
参考書																																														
授業資料																																														
成績評価																																														
成績評価基準に関わる補足事項																																														
ルーブリック																																														
学習相談																																														
添付ファイル																																														
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html																																													

更新日付	2018-04-23 10:50:58.728



シラバス参照



講義科目名	女性学・男性学 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1116J
講義題目	
授業科目区分	総合科目
開講年度	2018
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1
担当教員	野々村 淑子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	<p>「女性学・男性学 II」との連続受講が望ましい。</p> <p>【複数担当教員】田中友佳子、坂岡庸子、阿尾安泰、石岡学、小川真理子</p> <p>「この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html」</p>

PAGE TOP

授業概要	<p>本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。</p> <p>The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present 'gender equal society', and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of 'gender' embedded in the society and academic disciplines.</p>
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ

履修条件等																																														
履修に必要な知識・能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。																																													
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td>生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:専門的技能</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独自の知見を述べることができる。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技能</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。	2.	B:専門的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独自の知見を述べることができる。	3.	C:汎用的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。	4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。																														
No	観点	詳細																																												
1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。																																												
2.	B:専門的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独自の知見を述べることができる。																																												
3.	C:汎用的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。																																												
4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。																																												
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>4/11 小川真理子／田中友佳子／野々村淑子「オリエンテーション」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>4/18 田中友佳子「家族社会史1—<母>の誕生」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>4/25 田中友佳子「家族社会史2—戦時体制下の生/性/政」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>5/9 坂岡庸子「命と性を社会とリンクさせるイエ制度」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>5/16 阿尾安泰「メディアにおける女性という表象」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>5/23 阿尾安泰「歴史における女性という表象」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>5/30 石岡学「虚構としての男らしさ」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>6/6 小川真理子「社会学からみるジェンダー:男性性と暴力」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	4/11 小川真理子／田中友佳子／野々村淑子「オリエンテーション」	○			2.	4/18 田中友佳子「家族社会史1—<母>の誕生」	○			3.	4/25 田中友佳子「家族社会史2—戦時体制下の生/性/政」	○			4.	5/9 坂岡庸子「命と性を社会とリンクさせるイエ制度」	○			5.	5/16 阿尾安泰「メディアにおける女性という表象」	○			6.	5/23 阿尾安泰「歴史における女性という表象」	○			7.	5/30 石岡学「虚構としての男らしさ」	○			8.	6/6 小川真理子「社会学からみるジェンダー:男性性と暴力」	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																										
1.	4/11 小川真理子／田中友佳子／野々村淑子「オリエンテーション」	○																																												
2.	4/18 田中友佳子「家族社会史1—<母>の誕生」	○																																												
3.	4/25 田中友佳子「家族社会史2—戦時体制下の生/性/政」	○																																												
4.	5/9 坂岡庸子「命と性を社会とリンクさせるイエ制度」	○																																												
5.	5/16 阿尾安泰「メディアにおける女性という表象」	○																																												
6.	5/23 阿尾安泰「歴史における女性という表象」	○																																												
7.	5/30 石岡学「虚構としての男らしさ」	○																																												
8.	6/6 小川真理子「社会学からみるジェンダー:男性性と暴力」	○																																												
授業以外での学習にあたって	講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。																																													
テキスト	適宜配布する。																																													
参考書	適宜紹介する。																																													
授業資料	適宜配付する。																																													
成績評価	<p>●評価について</p> <p>1. 出席点</p> <p>毎回出席カードにて出席をとります。</p> <p>2. レポート</p>																																													

成績評価基準に関わる補足事項	<p>《課題》</p> <p>第1回から第8回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。</p> <p>《形式》</p> <p>出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。</p> <p>手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。</p> <p>分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。</p> <p>指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。</p> <p>《提出要領・締切》</p> <p>それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時までに提出すること。</p> <p>1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。</p> <p>《提出先》</p> <p>基幹教育教務係のレポート・ボックス</p> <p>4. 評価方法</p> <p>出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。</p>
ループリック	女性学・男性学講義ループリック.pdf
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2018-03-19 10:16:17.359



シラバス参照



講義科目名	女性学・男性学Ⅱ
科目ナンバリングコード	KED-GES1117J
講義題目	
授業科目区分	総合科目
開講年度	2018
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1
担当教員	野々村 淑子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	<p>「女性学・男性学Ⅰ」との連続受講が望ましい。</p> <p>【複数担当教員】野依智子、山下亜紀子、谷口秀子、瀬口典子、中村美亜、小川真理子、野々村淑子</p> <p>「この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/index.jp.html」</p>

PAGE TOP

授業概要	<p>本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イェ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。</p> <p>The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present 'gender equal society', and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of 'gender' embedded in the society and academic disciplines.</p>
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ

履修条件等																																									
履修に必要な知識・能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。																																								
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td>生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:専門的技術</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べることができる。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:汎用的技術</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:態度・志向性</td> <td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。	2.	B:専門的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べることができる。	3.	C:汎用的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。	4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。																									
No	観点	詳細																																							
1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。																																							
2.	B:専門的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べることができる。																																							
3.	C:汎用的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。																																							
4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。																																							
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>6/13 野依智子「女性労働の現状と歴史」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>6/20 野依智子「男女共同参画社会の実現をめざして」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>6/27 山下亜紀子「ケアをめぐるジェンダー問題を考える」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>7/4 谷口秀子「児童文学、ポップカルチャーをめぐる女性学・男性学」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>7/11 瀬口典子「自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>7/18 中村美亜「LGBT:性とアイデンティティをめぐる科学と政治」</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>7/25 小川真理子／野々村淑子「まとめ」</td> <td></td> <td>I、IIを通したふりかえりとディスカッションを行う。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	6/13 野依智子「女性労働の現状と歴史」	○			2.	6/20 野依智子「男女共同参画社会の実現をめざして」	○			3.	6/27 山下亜紀子「ケアをめぐるジェンダー問題を考える」	○			4.	7/4 谷口秀子「児童文学、ポップカルチャーをめぐる女性学・男性学」	○			5.	7/11 瀬口典子「自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」	○			6.	7/18 中村美亜「LGBT:性とアイデンティティをめぐる科学と政治」	○			7.	7/25 小川真理子／野々村淑子「まとめ」		I、IIを通したふりかえりとディスカッションを行う。	
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																					
1.	6/13 野依智子「女性労働の現状と歴史」	○																																							
2.	6/20 野依智子「男女共同参画社会の実現をめざして」	○																																							
3.	6/27 山下亜紀子「ケアをめぐるジェンダー問題を考える」	○																																							
4.	7/4 谷口秀子「児童文学、ポップカルチャーをめぐる女性学・男性学」	○																																							
5.	7/11 瀬口典子「自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」	○																																							
6.	7/18 中村美亜「LGBT:性とアイデンティティをめぐる科学と政治」	○																																							
7.	7/25 小川真理子／野々村淑子「まとめ」		I、IIを通したふりかえりとディスカッションを行う。																																						
授業以外での学習にあたって	講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。																																								
テキスト	適宜配布する。																																								
参考書	適宜紹介する。																																								
授業資料	適宜配付する。																																								
成績評価	<p>●評価について</p> <p>1. 出席点</p> <p>毎回出席カードにて出席をとります。</p>																																								

成績評価基準 に関する補足 事項	<p>2. レポート</p> <p>《課題》</p> <p>第1回から第7回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。</p> <p>《形式》</p> <p>出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。</p> <p>手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。</p> <p>分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。</p> <p>指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。</p> <p>《提出要領・締切》</p> <p>それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時までに提出すること。</p> <p>1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。</p> <p>《提出先》</p> <p>基幹教育教務係のレポート・ボックス</p> <p>4. 評価方法</p> <p>出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。</p>
ループリック	女性学・男性学講義ループリック.pdf
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2018-03-19 10:10:47.019



シラバス参照



講義科目名	科学の進歩と女性科学者 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1148J
講義題目	
授業科目区分	総合科目
開講年度	2018
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	「この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、 詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html 」

授業概要	<p>科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、ヨーロッパをはじめ著名な女性科学者たちが「如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか」「その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか」等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。</p> <p>The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials. As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.</p>
キーワード	時代背景、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係
履修条件等	なし
履修に必要な知識・能力	高校卒業レベル

到達目標	No	観点	詳細							
	1.	A:知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる							
	2.	B:専門的技能	科学者の文献・資料等を検索後、要約できる							
	3.	C:汎用的技能	科学者の業績および人生から学び取ったことを説明できる							
	4.	D:態度・志向性	授業2/3以上出席し、アンケート等に回答できる							
授業計画	No	進度・内容・行動目標			講義	演習・その他	授業時間外学習			
	1.	DNA二重らせん構造発見にまつわる人々			○					
	2.	ロザリンド فرانクリン			○					
	3.	ドロシー・ホジキン			○					
	4.	バーバラ・マクリントック			○					
	5.	リータ・レーヴィ・モンタルチャーニ			○					
	6.	ガートルード・ベル・エリオン			○					
	7.	レイチェル・カーソン			○					
	8.	レポート作成								
授業以外での学習にあたって	女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる									
テキスト	なし									
参考書	<p>生命とは何か(Erwin Schrödinger(岡小天・鎮目恭夫訳):岩波書店)、細胞工学 別冊『分子生物学の誕生 奇跡の年1953年 上』(鈴木理:秀潤社)、トートラ 人体の構造と機能 第4版(桑木共之他共訳:丸善)、タークレイと呼びながら(フレンド・マドックス:化学同人)、The Third Man of the Double helix (Maurice Wilkins:Oxford University Press)、The Double Helix (James D Watson:A Norton critical Edition)、分子生物学の軌跡:パイオニアたちのひらめきの瞬間(野島博:化学同人)、お母さんノーベル賞をもらおう(中村桂子・友子訳:工作舎)、美しき未完成(自伝)(リータ・レーヴィ・モンタルチャーニ:平凡社)、科学者の女性史(宮田新平:創知社)、シンプル病理学(笹野公伸:南江堂)、20世紀の女性科学者たち(ルイス・ハーバー(石館三枝子・中野恭子訳):晶文社)、A FEELING FOR THE ORGANISM(Evelin Fox Keller:W.H.Freeman and Company)、レイチェル・カーソン(上岡克己・上遠恵子・原強 編著:ミネルヴァ書房)、Silent Spring(Rachel Carson:Penguin Books)、レイチェル レイチェル・カーソン『沈黙の春』の生涯(リンダ・リア(上遠恵子訳):東京書籍)、MOLECULAR STRUCTURE OF NUCLEIC ACID(J.D. Watson,F.H.C.Click:NATURE vol.171, 737-738, 1953)</p>									
授業資料	教員から配布									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	○					80%
					◎					10%
	アンケート	○	○	○	○					10%
成績評価基準に関わる補足	2/3の出席をレポート提出要件とする。レポート課題は5月中に発表する。									

事項	
ループリック	ループリック:平成30年度 科学の進歩と女性科学者 I.pdf
学習相談	授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jp までメールを下さい。
添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 I』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 II』と合わせて受講していただくと、理解しやすくなると思います。
更新日付	2018-04-03 15:29:56.176



シラバス参照



講義科目名	科学の進歩と女性科学者 II
科目ナンバリングコード	KED-GES1149J
講義題目	
授業科目区分	総合科目
開講年度	2018
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	1
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	「この科目はEU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) 開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjip.html 」

授業概要	<p>『科学の進歩と女性科学者 II』では『科学の進歩と女性科学者 I』で紹介した以外のヨーロッパをはじめ著名な女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。</p> <p>The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman pioneer scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials. As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.</p>						
キーワード	時代背景、社会的地位、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係						
履修条件等	なし						
履修に必要な知識・能力	高校卒業レベル						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A: 知識・理解</td> <td>科学者の業績および人生を説明できる</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	A: 知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる
No	観点	詳細					
1.	A: 知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる					

PAGE TOP

到達目標	2.	B: 専門的技能	科学者の文献・資料等を検索後、要約できる							
	3.	C: 汎用的技能	先駆的科学者の業績から将来解決すべき問題点を述べられる							
	4.	D: 態度・志向性	授業2/3以上出席し、アンケート等に回答できる							
授業計画	No	進捗・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	マリー・キュリー	○							
	2.	イレヌ・ジョリオ・キュリー	○							
	3.	リーゼ・マイトナー	○							
	4.	マリア・ゲッペルト・マイヤー	○							
	5.	エレン・スワロウ・リチャーズ	○							
	6.	保井コノ、湯浅年子	○							
	7.	レポート作成								
	8.	まとめ	○							
授業以外での学習にあたって	女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる									
テキスト	なし									
参考書	生命とは何か(Erwin Schrödinger(岡小天・鎮目恭夫訳):岩波書店)、お母さんノーベル賞をもらう(中村桂子・友子訳:工作舎)、科学者の女性史(宮田新平:創知社)、シンプル病理学(笹野公伸:南江堂)、マリー・キュリー フラスコの中の闇と光(B・ゴールドスミス(竹内喜訳):WAVE出版)、リーゼ・マイトナー 嵐の時代を生き抜いた女性科学者(R・L・サイム(鈴木淑美訳):シュプリンガー・フェアラーク東京)、20世紀の女性科学者たち(ルイス・ハーバー(石館三枝子・中野恭子訳):晶文社)、ELLEN SWALLOW - The Woman Who Found Ecology(Robert Clarke(工藤秀明訳):新評論)									
授業資料	教員から配布									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	○					80%
					◎					10%
	アンケート	○	○	○	○					10%
成績評価基準に関わる補足事項	2/3の出席をレポート提出要件とする。									
ルーブリック	ルーブリック:平成30年度 科学の進歩と女性科学者 II.pdf									
学習相談	授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jp までメールを下さい。									

添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 II』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 I』と合わせて受講していただくと、理解しやすくなると思います。
更新日付	2018-04-03 15:41:25.536

